



学校だよい

学校教育目標



わやかな心



んけんな目



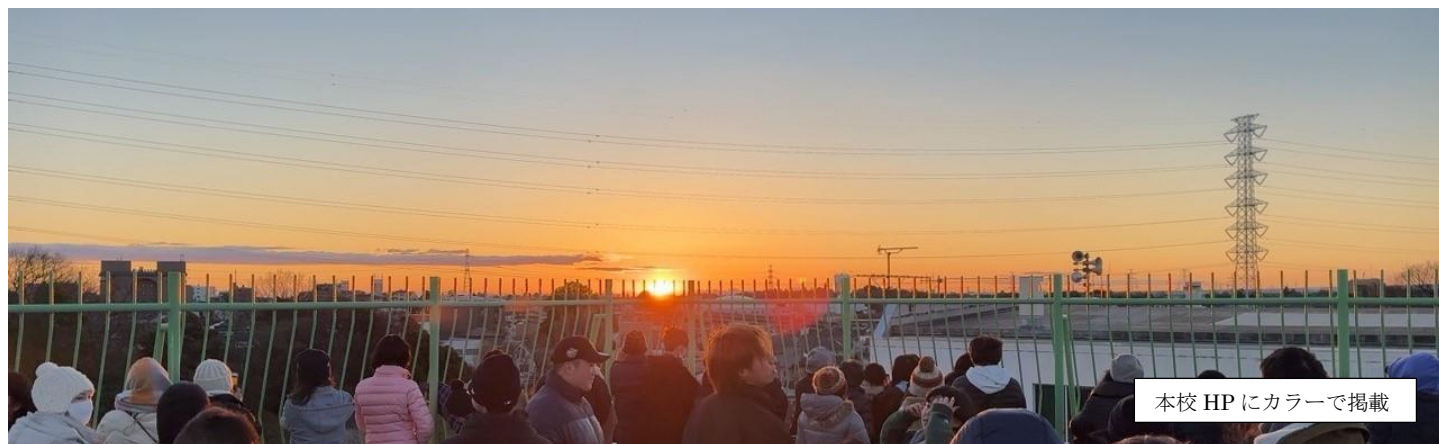
なぶ力

令和5年度1月号
令和6年1月9日発行
川口市立差間小学校



昇竜、天に向かってぐんぐん伸びる一年に

校長



本校 HP にカラーで掲載

令和6年が始まりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。今年は、校舎屋上で見る初日の出をご案内したところ、好天に恵まれ、保護者・地域の皆様、子供たちにたくさんお集まりいただき、いっしょに初日の出を拝むことができました。今年もよい一年にしたいものだと、気持ちを新たにしました。

しかし、今年は年始早々、大きな災害と事故が相次ぎました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

今年は辰年です。辰年について、諸説の一部をご紹介します。

干支は、十干十二支を組み合わせたものです。そのうち十二支は、本来は植物の成長過程を意味するもので、5番目の「辰」は植物が盛んに成長する段階を表しています。しかし昔の中国で、植物の成長過程より、身近な動物に言い換えたほうが分かりやすいということになり、12種の動物に当てはめたそうです。ところが、ネズミ・牛・トラ・ウサギ・竜・へび・馬・羊・サル・ニワトリ・犬・イノシシの中で竜だけは実際には存在しません。年賀状でも、例えば「申年」や「亥年」にはサルやイノシシのイラストや写真を使いますが、「辰年」だけは「ドラゴン」「タツノオトシゴ」「恐竜」などさまざまな「竜のイメージ」に近いものを用いることが多いようです。なぜ、誰も見たことがない架空の動物が十二支の一つに選ばれたのでしょうか？

その理由は、干支の起源である古代中国では、最強の一つである「竜」が実在すると信じられていたためです。生きている竜を見た人はいなかったでしょうが、恐竜の化石が発見されると、それが「竜の骨」と信じられ、恐竜から天に上る「竜（龍）」の存在に結びついたのでしょう。また、「龍」には「鰐（ワニ）」の意味もあったので、「そもそも龍はワニを指していた」という説もあります。

植物が盛んに成長する段階を表す「辰年」と、天に向かって空を昇る竜のイメージが結びついたのかもしれませんが。今年は、差間っ子に天に向かってぐんぐん伸びる一年に…と夢が膨らみます。ちなみに外国では、12種の動物の中に、ネコ、ブタ、ラクダ、ヒョウ、カタツムリなどが入っている国もあるようです。日本では、神様の声掛けで競走をしたお話が有名です。速くてもゆっくりでも、ゴールに向かって進んでいきましょう。